

問 ごみ処理広域化の準備状況と課題は

答 減量目標はぎりぎり達成している



丸山勇太郎 議員

【ごみ処理広域化本格実施に向けての対応状況】

問 白馬村としての準備がどこまで出来ているか。残っている課題は。

答 地区集積場で収集に支障をきたす報告はないが、必要箇所の整備は今後も進める。宿泊施設等事業者の業者委託は着実に進んでいる。アパート住人対策には、大家へのアンケートや戸別訪問を実施。大家を通じてガイドブックは行き渡らせた

問 広域化でこれからのごみ処理は新しい時代に入っていく。今回だけは郵送してもガイドブックを全世帯に行き渡らせてほしい。

答 戸別投げ込み方式もあるが、郵送は案としては承る。

問 未だに集積場を造れていない地区がある。みそら野区などで認めた小規模ステーション方式は数が多くなると収集経費の問題があるが、経費は度外視して進めるのか。

答 地区集積場が無理な地区では、この方式で隣組単位ぐらいではお願いしたい。ただし集積場も諦めてはいないので並行して進める。

問 業者聞き取りで集積場が明らかに不足する地区として、白馬町区と飯田区が上がっている。集積場を造れないでいる地区と併せ、早々に行政が介入して取り組むべき。

答 完全でない地区は確かにある。曜日ルールの徹底と、地区と話し合いながら拡充や新設を考えた。8月以降の清掃センターでの受け入れ周知も進める。

問 ごみ出し時間の前日夕方6時からは、日が短くなるに暗すぎて、お年寄りや生活弱者には厳しいルール。利用者の利便性を優先して欲しい。

答 要望は聞いているが、他自治体と比べれば逆に長いという意見もある。定着した今の時間ルールの中で徹底を図り、高齢者や介護支援者には地区ごとに柔軟なルールで扱いたい。

問 ごみ分別の啓蒙は子供たちこそ教育としてやるべき。複数学年で機会を設けてほしい。

答 良い提案なので検討する。

問 新年度におけるごみ処理の取り組みは

答 集落支援員を一人増員する

問 行政区問題の新年度での取り組み

行政区問題の解決に向け

て新年度での取り組みは。特に行政公報が行き届かないことは根幹的任務に関わる問題だが。

答 集落支援員を一人増員する。加入率80%を目指して区加入のメリットをお知らせしていく。役員の負担軽減では2つを見直し、農家組合長は調整中。広報の不備は新年度にホームページのリニューアルを実施。

問 集落支援員の仕事が見えない。広報は今のままで絶対ダメ。受動的に行き渡らせるのはやはり紙媒体(広報誌)の利用が期待できるスマホ防災アプリの実施時期は。

答 整備方針は出来ていて、実施に向けて研究中。

問 集落支援員の仕事が見えない。広報は今のままで絶対ダメ。受動的に行き渡らせるのはやはり紙媒体(広報誌)の利用が期待できるスマホ防災アプリの実施時期は。



リサイクル物の品目ごとに置き場所を定めた沢渡区のごみ集積場理想的であり他の模範となる事例